

令和 6 年度 学校自己評価システムシート（県立岩槻北陵高等学校）

目指す学校像	地域の信頼に応え、節度と規律を重んじ、新たな自分の創造に向け、主体的に学び続ける生徒を育む学校
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の学ぶ意欲と確かな学力を向上させ、生徒一人ひとりの進路実現を図る 2 家庭・地域への情報発信を通じ、本校への理解を深める 3 基本的生活習慣を確立させ、規律ある安心・安全な生活を送る 4 生徒の自主的活動を通じ、社会に貢献する心豊かな人間を育てる
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	授業に集中できる環境が整えられ、落ち着いて授業に臨む生徒が増えている。 ユニバーサルデザインの視点を授業に活かし、より一層授業に集中できる環境を整える必要がある。また、一人一台端末の活用を進め、ICT を効果的に活用した学びにより生徒の基礎学力を定着させる事が課題である。 進路ガイダンスやインターンシップ等とおし、生徒の進路意識は向上している。一人一人の進路実現に向け、進学に必要な学力の養成と勤労意識を向上させることが課題である。	(1) 学びの質を高め、基礎学力を定着させる。	①チャイム to チャイムを徹底し、授業規律を確保する。 ②ICT を効果的に活用し、一人一台端末をすべての授業で活用する。 ③朝学習、放課後・考査前勉強会を実施する。 ④ユニバーサルデザインの視点から授業改善をおこなう。(研修会の実施(7月)、支援員等からのフィードバック(通年))	①「チャイム着席」ができた割合95.0%以上(生徒アンケート) ②ICT、一人一台端末の活用状況調査(1月) ③各種学習会に参加する生徒数の増(7月と12月の比較) ④研修会の実施状況(7月) 特別支援委員会で各支援員からのフィードバックを共有できたか(特別支援委員会毎)			
		(2) 系統的・組織的な進路指導により、生徒一人一人の主体的な進路実現を支援する。	①探究活動や分野別ガイダンスを計画的に実施し、生徒が主体的に進路を考える契機とする。 ②2年生でインターンシップ(11月)を実施し、体験的に職業意識を形成する。 ③実力養成講座の利用者を増やし、進路実現に必要な力を養成する。	①分野別ガイダンスの実施状況、進路未定者率の減少(昨年度比) ②インターンシップの実施状況(2年生全員5日)満足度80%以上(実施後アンケート) ③実力養成講座への参加者増、模擬試験受験者数の増(前年比)			
2	地域行事への参加や小学校のクラブ活動等への参加など、学校外との交流を積極的におこなっている。 引き続き、学校の取組や生徒の活躍の様子を効果的に発信し、本校への理解を一層深める必要がある。 また、学校ホームページや斉メールの効果的な活用が課題である。	生徒の活躍の様子や学校の取り組みを積極的に発信する。	①学年通信や分掌通信等をHPに掲載する。 ②学校の取組を一斉メールで配信する。 ③地域行事等に積極的に参加し、地域に貢献する。 ④保護者の学校行事への参加を促し生徒が共に活動する場を設定する。	①学年・分掌・部活動等HPの更新回数(月2回以上) ①学年通信等の発行状況。 ②一斉メールで取組の発信(各学期1回以上) ③地域行事への参加状況。 ④「あいさつ運動」や学校行事への参加者増(前年比)			
3	基本的生活習慣の改善を要する生徒が増えており、教職員の共通理解の下で、粘り強く指導している。 今後も、一貫性のある指導を粘り強くおこない、生徒の規範意識を高め、基本的生活習慣を確立させることが課題である。 また、交通マナー改善に向けた取組も継続する必要がある。	学校全体で、組織的で一貫した生徒指導をおこない、生徒の規範意識を高め、安心・安全な学校生活を保障する。	①進路実現に向けて自ら身だしなみを意識できるように指導する。 ②昇降口での立哨指導、「遅刻0運動」を実施する。(通年) ③ネットトラブル防止に向けた啓発をおこなう。 ④交通安全指導や自転車マナーアップ講習を実施する。(9月) ⑤防災訓練や薬物乱用防止教室をおこない、危機管理能力を高める。	①身だしなみ指導件数の減少(前年比)。 ②遅刻指導対象者数(15%減少) ③講習会の実施(年1回)「ネットトラブル注意報」等の周知 ④交通トラブル、苦情・事故件数の減少(前年比) ⑤防災訓練・薬物乱用教室の実施			
4	文化祭等の学校行事では、生徒会役員や各委員会が主体的に活動している。生徒の自己有用感向を高めるためには、生徒が主体的に活動し、活躍できる場を設定する必要がある。 また、特別な支援が必要な生徒が多く、それぞれの課題に対応するためには、校内支援体制を充実させ、関係機関との連携を強める必要がある。	(1) 学校行事や委員会活動における主体的な活動を促し、生徒の自己有用感を高める。	①各行事において生徒の意見を反映させ、生徒に主体的に運営させる。 ②団活動や委員会活動を活性化させ生徒が活躍できる機会を増やす。 ③携帯電話使用のルールなど生徒によるルールづくりをおこなう。	①行事における生徒の運営状況及び満足度80%以上。 ②団活動及び委員会等の活動状況。 ③携帯電話使用に係る指導件数の減少(前年比)			
		(2) 個に応じた支援体制を充実させ、教育相談員やSC、SSW、外部機関との連携を強化する。	①教育相談・特別支援教育委員会を定期的に開催し、生徒の情報を共有し、生徒に応じた対応を行う。 ②日本語指導支援員による支援を有効活用する。 ③地域等と連携したソーシャルスキルトレーニングの実施する。(中途退学防止事業)	①生徒の情報の共有状況、個に応じた対応ができたか。 ②対象生徒が継続的に日本語指導に参加できたか。 ③中途退学者数0人、外部と連携してソーシャルトレーニングを実施できたか。			

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	令和	年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等		